

## 自然豊かなニュージーランドへの誘い

経済学部准教授 井手 豊 也

07年8月1日水曜日16時頃、目的地であるパーマストーンノース (Palmerston North) に家族とともに無事に到着する。30分程、空港にて大家さんの出迎えを待つ。60歳代の白髪の大家さんとの挨拶を終え、スーツケース四つを車に詰め込む。その内の一つには、日本から持ってきたインスタントラーメンが (無事に税関を通過) ぎっしり詰まっていた。ニュージーランドのこの時期の気候は、日本と逆で冬である。寒さを覚悟していたが、さほど寒く感じられなかった。確か、気温は12度ぐらいだったと思う。

この前日は、気温30度近くある福岡を13時頃出発し、成田に到着 (距離886km)。夕方6時半に成田を出発、真夜中の寝ている時間帯に赤道を通過し、クライストチャーチ経由にてオークランド空港に翌日の13時35分に到着 (距離8886km)。国際線から国内線ターミナルへ移動、15時頃パーマストーンノースへ向かう (距離376km)。総所要時間23時間05分、総飛行距離10,148kmの旅であった。この国では、ディライト・セーヴィング (時間を一時間早める) が9月の最後の日曜日から4月の最初の日曜日まで設定されていて、この時期、日本との時差は4時間で早くなる。

ここでパーマストーンノースについて、簡単に紹介しておく。この市は、首都のウェリントンから約150km北に位置する内陸地で、この国で11番目の面積を持ち、人口は約78,800人で7番目である。この人口の半分以上が学生からなる学生街である。夏の日中の平均気温は22度でエ

アコンはいらず、冬は12度ぐらいでほとんど雪は降らない。日本と異なって、南に行くほど寒くなる。この地は、地理的に風がよく吹き、近郊の丘には (Ashhurst と呼ばれる町の丘) 発電用の巨大な風車が157機設置されている。

この市には、ニュージーランドにある八つの国立大学の内の一つ、マッセー (Massey) 大学がある。この大学の生徒数は約41,000人で、5,000人以上の留学生が在籍し、国内最大の大学である。また、国内外での遠隔教育を提供しており、在籍数は約20,000人になる。私は、この大学の Department of Applied and International Economics に客員研究員として、1年間世話になった。滞在中に、この学部は、Department of Finance に合併されることになり、今の名称は Department of Economics and Finance に変わっている。市の中心部 (CBD) から車で約10分、借家からは約5分の所にある。市街地を通るキャンパス用シャトルバスが、学生に無料で提供されている。この大学は、1927年に設立され、牧場などを含んだ広大な敷地の中には、広い池がある。鴨や黒鳥 (Black Swan) などを含む様々な鳥が生息しており、その周りは学生達の憩いの場の一つとなっている。また、キャンパスには、樹齢300年を超える大きな樹木が多く立ち並び、緑と自然が豊かなキャンパスとなっている。ほぼ毎日、駐車場から10分程徒歩でこのキャンパスを通り、あてがわれた研究室へ通い自分の研究をやっていた。

この街での最初の二週間は、家族四人で一年

間生活する為の準備で追われた。その後、8歳と10歳の子供は、歩いて10分ぐらいの地元の小学校へ通い始めた。言葉が通じないのに、すぐに友達ができた。こちらの小学校は、4学期制で、1学期は2月から始まる。学期末にはそれぞれ約2週間の休みがあり、12月の中旬辺りから2月の頭までは長い夏休みがある。子供が5歳になると小学校へ通い始める。日本では、3年生と5年生だった子供達は、いきなり4年生と6年生になってしまい、年が明けると、5年生と中学1年生になってしまった。ただし、上の子は語学がまだ不十分だったので、6年生に留まることにしてもらった。この学校の生徒は、この国の子供（マオリを含む）だけでなく、中国、インド、韓国、アフリカの国、オーストラリア、それと日本の多国籍の生徒で構成されていた。帰国後、私の子供達は4年生と6年生として、二学期から元の小学校へ戻ることとなる。

9月の終わり頃に、小学校が2週間の休みに入った。我々は、車で約2時間の首都であるウェリントンへ、1泊の予定で向かった。この国での車の速度は、市街地で時速50km、市街地から出ると時速100kmである。首都の人口は40万人で、北から東へ走る断層の上に位置している。約150年程前に、マグニチュード8.2の地震があったそうだ。私達は、いくつかの名所を回ったが、特に印象深かったのが、ウォータフロントにあるニュージーランド国立博物館（テ・パパ・トンガルワ）である。マオリ人の文化を含む太平洋諸島の歴史的な美術品や現代美術品が数多く所蔵されている。博物館の近くで人気があるカフェで昼食を取ることにした。子供達は、フィッシュ・アンド・チップス（Fish & Chips）を注文した。この国の人は、ファッシュ・アンド・チャップスと発音するみたいだ。iの発音が「ア」になる。例えば、キッド（Kid、子供）をキャッドと発音するようで、私の友人のオー

ストラリア人でもわからなかったそうだ。

ウェリントンから戻り、二日後に車で350km走り（休憩を含めると約5時間）温泉が湧くロトルアへ2泊の予定で向かった。途中、湿地帯みたいなトンガリ口国立公園を、左手には、まだ雪を被った活火山である北島最高峰のルアペフ山（2,797m）を眺めながら通ってゆく。暫く走ると、この国最大のタウポ湖が目に見え込んでくる。ここを過ぎると、約1時間ぐらいでロトルアに到着する。その前に、ガイザー（間欠泉、Geyser）と地獄で有名なワイオタブに足を運んだ。ここの地獄は、ロトルアの姉妹都市である別府よりも規模が大きい。毎朝、10時15分にガイザーに、石鹸みたいな物を投げ込み噴出を促している。夕方、ロトルアに到着、硫黄の匂いが漂ってくる。その夜は、マオリ族のミタイ・ヴィレッジでディナーショーである。ディナーショーでは、ラグビーチームのオールブラックスで有名な「ハカ・ダンス」をはじめ、色々なダンスが披露された。外は少々寒かったが、迫力あるダンスが終わると、次は、マオリの伝統的な料理である「ハンギ」が出される。ハンギ料理は地面に穴を掘り、その中に焼石と食材の入ったかごを入れ、蒸し焼きにする。チキンの料理が一番美味しかったと思う。

他にも、ワイナリーがあるネーピアなど北島の数ヶ所を見学した。また、小学校の夏休みの終わり頃には、日本から訪れた友人と一緒に、南島を車で回った。（走行距離2,200km）北島のWellingtonから、フェリーで3時間、南島のPictonに到着する。それから、Kaikoura（マッコウクジラ見学）、Oamaru（ブルーペンギン）、Queenstown, Milfordsound, Hokitika（グリーンストーン）、Nelson（避暑地）を八日間掛けて巡った。南島は、圧巻で、とにかく、自然がすばらしい。友人が、「南島で、この世とあの世の境を見たようだ」と言った言葉が印象的だった。



クウィーンズタウンの丘から撮ったワカティブ湖

さて、大学での研究はどうだったかというと、小学校が休みでない時は、ほぼ毎日、研究室へ足を運び、一度、研究成果をセミナーを開いて発表することになった。最後になるが、カイコーラで見た、南十字星とミルキーウェイの美しさは、いまでも心の中に残っている。

